

祝 結成10周年

大山町剣道スポーツ少年団



大山町剣道スポーツ少年団 式典終了後は、先生や中学生が剣道形の演武を披露。また、紅白戦や親子対戦を行い、盛大に10周年を祝いました。

式典では、小村昭二代表、建部美華団長の挨拶の後、山根浩スポーツ少年団本部長がお祝いの言葉を述べ、団員を代表して、片桐蓮生主将が「感謝と今後の精進」を力強く誓いました。



▶誓いの言葉を述べる片桐主将



▶10周年を記念して集合写真

まちのたから (12) 文化財室通信

銅造明神鳥居の巻

おながみやまじんじやくのおみやま 大山神社奥宮への参道の途中、旧大山寺本坊西薬院跡付近に、高さ6・432メートルの「銅鳥居」があります。

この鳥居は、大山神社奥宮本殿・拝殿・幣殿と下山神社本殿・拝殿・幣殿の二棟が国から重要文化財に指定された際に、銅造明神鳥居として附指定されました。附指定とは、重要文化財の歴史的な価値を明らかにする資料や、価値の根拠となる資料を指定物件の一部として指定するものです。

近隣の銅鳥居の例としては寛文6(1666)年に建てられた出雲大社のもの(国重要文化財)があります。銅鳥居は元々少ないですが、戦時中に供出で失われた例もあるようです。

大山山神社奥宮の銅鳥居は今から234年前の天明2年(1782)に、神仏習合の大山寺へ参る川床・坊領・尾

高の三つの大山道が合流する表参道入り口に建てられました。現在の宮本旅館さんの店先付近です。江戸時代後期の絵図に「金鳥井」「唐金大鳥居」として描かれています。

銅鳥居は弘化4(1847)年の修理と二度の移転を経て現在地に移りました。

一度目は国立公園指定獲得の条件整備として坊領と大山寺を繋ぐ県道整備が進められた昭和8(1933)年で、

昭和四年の大風で倒壊していた銅鳥居が博労座入り口付近に移転再建されました。二度目は昭和37

(1962)年で、大山有料道路建設に伴い現在地へ移転されました。

銅鳥居が建てられた頃の大山寺は、大山信仰や札所めぐり、奥参りなどの参詣者や大山牛馬市に

集う人々と牛馬でたいへん賑わっていました。春の祭日には有名だった大

山牛馬市も開かれ、身動

きも取れないほどの人だかりで、大山道にも長蛇の行列ができたと言われます。行列の人混みには、大山寺境内の入り口に高くそびえる銅鳥居を眺めて「少しも進まないなあ」などと言いつつ人たちもあつたことでしょう。

今はひっそりと佇む銅鳥居が、その当時は大山寺境内の玄関口にあつて、皆が行き先の目印として銅鳥居を見つめていた。そう思うと感慨深いものがあります。

(人権・社会教育課文化財室)



▲旧本坊西薬院付近の銅造明神鳥居